

〈大学病院精神科

勤務時代〉

大学院を修了して、平成13年4月から京都府立医科大学精神医学教室の助手として京都に戻りました。平成18年秋から1年間だけ明石市立市民病院の心療内科医長として出向しましたが、その後平成21年8月まで大学病院勤務しており、その間に私が不肖ながら指導に当たりました後輩たちも今や立派に他の病院の副院長やクリニックの院長になっていきます。

〈京都府職員時代〉

平成22年から24年まで京都府職員のメンタルヘルスを担当する健康管理医として勤務し、その間に日本医師会認定産業医を取得しました。ここでは数多くの職員さんの悩み（上司のパワハラなど）や管理者側の苦労（仕事しない部下や長期休養している部下など）を見聞きして、私が管理者になったなら、職場全体を見渡して雰囲気の良い職場づくりをし、

職員一人一人の生活や人生を大切に考える管理者でありたいという理想の姿を学びました。

〈京都府精神保健福祉

総合センター時代〉

平成25年4月から当院に就職する前の平成30年3月までの5年間、京都府精神保健福祉総合センター所長として勤務しました。全国の都道府県と政令指定都市に一つずつある法定必置の機関であり、精神保健福祉行政の中核機関であるセンターの業務は、うつ病をはじめとする精神疾患の予防・啓発や、各種依存症（アルコールや薬物、ギャンブルなど）の予防・対策、自殺・自死対策、自立支援医療や障害者手帳の交付など、多岐にわたります。非常に多忙ながらもそれなりに充実しておりましたが、2年ほど前に三幸会理事長の城守国斗先生と福居前院長からお誘いを受け、お二人の精神科臨床と第二北山病院への誠意と愛情を知り、不肖ながら私が後任させていただく決意をいたしました。

〈当院の目指すところ〉

まずは精神科病院である以上は、患者さんに良くなってもらわれないと始まりません。きちんとした相談、検査、治療と看護ができて、当院なら何とかしてくれるのではないかと期待を抱いてもらえる病院でありたい。そしてそのうえで、職員一人一人が、仕事にやり甲斐を感じながら、なおかつ楽しく仕事ができる職場環境を作っていきたい。そして、さらに地域に溶け込み愛される病院でありたい。これはまさに、当法人（三幸会）の理念である三つの幸せ（患者、職員、地域）の実現を目指すものです。

まだまだ不慣れで至らぬことが多い、皆様にはご心配やご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。